

阿久津 由佳 准教授

【あくつ ゆか】

上智大学外国語学部英語学科卒業後、シティバンク、群馬県庁に勤務。その後スタンフォード大学大学院で外国語教育を専攻し修士号を取得。趣味は映画観賞、旅行。これまでに訪れた国は約30カ国。



- Current English 3-4
- Special Topics C・D
(旧メディア英語に見るアメリカ社会と文化)
- TOEIC Ⅰ・Ⅱ
(旧ビジネスコミュニケーションスキルズ)

研究テーマ

「仲のいい友人」と話すときと「知り合い程度の人」と日本語で話すとき、皆さんは同じ話し方をしますか？伝えたいことが同じでも言い方を変えますよね。では、英語ではどうでしょうか？「英語ってフランクでしょ？敬語ないし。あんまり変わらないんじゃないの？」と思っただ方もいるのでは？いえいえ、英語でもやっぱり違ってくるんですよ！丁寧な言い方もちゃんとあります。私の研究分野は「語用論」というもので、とても大雑把に言うとそんな「話し方・伝え方」を研究するものです。

言葉を使うとき、私たちは文法や語彙や発音の知識（言語知識）だけでなく、その言語社会のルールやマナー、決まった言い回しなどの知識、つまり「語用論的知識」も使っています。例えば日本語だと「目上の人には敬語で話す」というのもその一つです。「いい天気だね！」という発言は、文法的には何の問題もありませんが、先生に向かっては普通は言わないですよね。それは、皆さんが「語用論的知識」を活用して判断できているからです。このように、自然で適切なコミュニケーションをするためには、「言語知識」だけでなく「語用論的知識」も不可欠です。

ところが、これらのルール等は言語や社会によって違うことが分かっています。例えば、アメリカ英語では「目上」か「目下」かではなく、お互いの「心的距離」によって丁寧表現の使われ方が変わると言われています。つまり、ある言語を学んで適切に使うには、その「言語知識」だけでなく、それを使う社会でのたくさんの「語用論的知識」も学ぶ必要があるのです。

私は、特に英語学習者の語用論的能力とその習得に興味を持っています。実は「語用論的知識」は、文法や語彙を学ぶだけでは自然に身に付かないことがわかっています。ところが、これまでの英語教育は言語知識の指導に偏り、語用論的能力に関してはほとんど触れてきませんでした。私は、この問題に焦点を当てて、「語用論」を活用した自然で適切な英語コミュニケーションができる能力育成のための英語教授法について研究を行っています。

英語の敬語!? 見えない言葉のルール「語用論」について

学生のひとこと



Special Topics (メディア英語に見るアメリカ社会と文化) を受講しています。アメリカの価値観や社会や文化、問題などについて、たくさんの映画を見ながら学習しています。今まで知らなかったアメリカの側面に気付いて、ますます留学したくなりました。生きた英語もたくさん聞けるし、映画の見方も全然変わりました！
(2013年入学)